演題 1

外用塗としての甘草エキス「リコニンKT」の可能性

加藤　進（東京都　柔道整復師）

【外用塗としてのリコニンＫＴの可能性】

構造医学を学ぶ上で、消化や内分泌に関わる生理作用を知るのは必須な事である。またそれを補助、保護する構医補助食品も数多く存在し、適材適所で活用するにはそれらの作用も併せて熟知していなければならない。その補助食品の中で甘草エキスを純度高く抽出したリコニンＫＴというものがあり、主にはその特徴的作用から、咽頭の炎症や抗ウイルス作用を期待し、風邪の流行る季節にうがい予防法として使用している先生方が多いと予測できる。

また、甘草エキスは服用することで様々な効果があり、代表的な所では抗アレルギー作用、抗ガン作用、肝機能補助、粘膜保護、抗潰瘍作用、解毒作用等がある。西洋史ではヒポクラテス全集に、中国では最古の本草学書「神農本草学」にも貴重な薬草としてその名前が書き記される。また現行の漢方薬の８割に甘草が含まれ、現役の薬効成分として活躍している。

しかしながら、甘草の外用薬としての効果にはあまり文献がなく、そのため漢方医であっても、外用薬として使用している先生は少ないであろう。そこで構造医学本講義の中で教えがあった「外用塗としてのリコニン効果」を実際に使用して、どれぐらいの効果があるのかデータを集積してみた。そのなかで有効な疾病経過推移があった臨床事例をいくつか発表したい。

[症例①]

◎ 川遊び中に起こした皮膚発疹（37 歳女性）

丹沢の渓流でネオプレーン素材のウエットスーツを着用して川遊びした後に、素材との摩擦で皮膚表面が微細に傷つき黴菌が侵入したせいか、下腿広域に渡り皮膚炎症を起こした。高濃度（※ 10ml に 20 ～ 30 滴以上）に水で希釈したリコニンを織つきのコットンで塗布。塗った直後から真っ赤に腫れていた症状が軽減し、痒みが出るごとに頻繁にこれを繰り返した。２４時間経過で炎症は綺麗に沈静した。

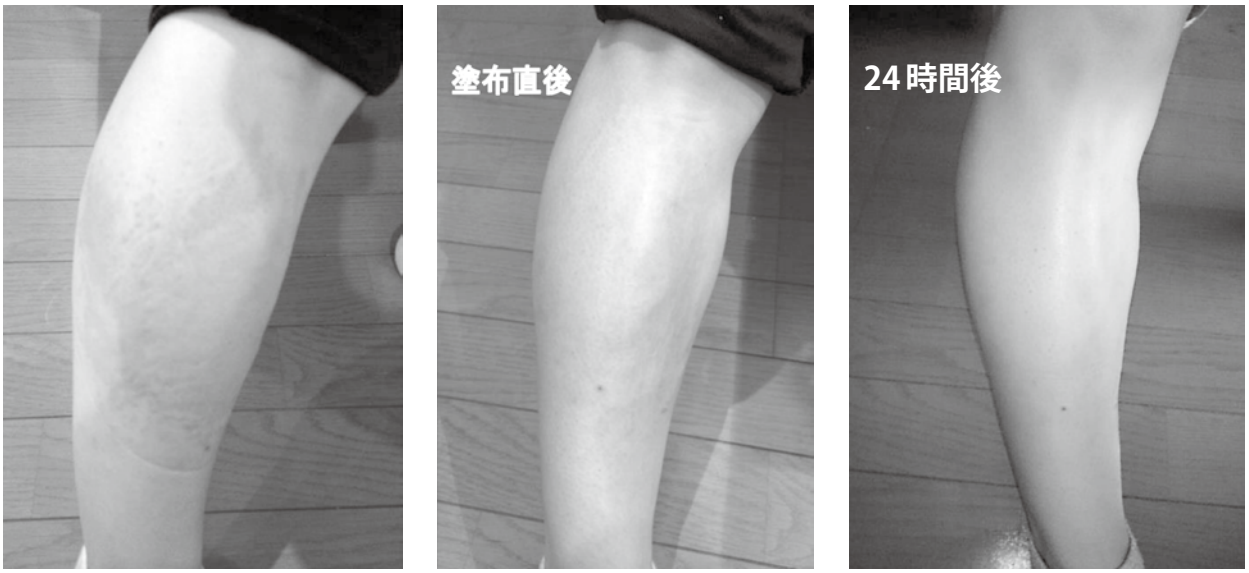

写真 01

[症例②]

◎ ゴルフに行った先輩 T 先生ブヨに咬まれ足首に腫脹（42 歳男性 T 先生）

ゴルフ中にブヨに咬まれ、特有の痛みを伴う腫脹を起こす。ブヨは一度に数か所咬まれるとショック症状を起こすこともある強烈な毒素を残していく。ブヨはやぶ蚊を一回り大きくしたような虫である。ご自身で症例①同様の希釈リコニンを塗布しこれを数回繰り返す。経過を追ってもらうと、24 時間後にはほぼ沈静する。

写真 02

[症例③]

◎ 毎年冬になると背部広範囲にわたって発疹がでる女性（32 歳女性）

乾燥時期になると背中や大腿部へ広範囲に発疹が出て困っていた女性。食生活の乱れや発汗する習慣が無い事が原因ではないかと推測し、体外からのリコニン塗布に体内の解毒促進と腸内免疫の補完をする。また少し着こんで運動し汗をかくことを指導。希釈リコニンの塗布を１日３回、痒みが出た場合はさらにその都度を繰り返し、リコニン塗布後乾燥を待ち、ワセリンで患部をコーティングさせた。約２カ月で改善され、この先も再発することはなかった。解毒の一環としてリコニンの飲用（１日湯呑に湯を１杯リコニン５滴程）も行った。

写真 03

[症例④]

◎ 痘瘡状苔癬粃糠疹（とうそうじょうたいせんひこうしん）４歳女児

写真 04

写真 05

写真 06

写真 07

痘瘡状苔癬粃糠疹という原因不明の難治疾患に侵されてしまった４歳女児。女児の親は、最初はとびひかと思って市販軟膏を塗るものの、あきらかに症状は強くなり不安に思って皮膚科へ受診。しかし診断がつかず病院を転々とした。紹介を受け専門の大学病院で精密検査を受けてやっとこの診断名がついたが、原因が不明でステロイド内服薬や軟膏で長期的に対処するしか手がないと告げられた。

体外から希釈リコニンの塗布を、痒がるたびこまめに行わせた。またリコニン塗布した後は乾燥を待ちワセリンで全体をコーティングする。食習慣もひどかったのでその改善も徹底した結果、３カ月程度でほぼ平癒した。写真４は初検時、写真５は３カ月後、写真６は１カ月後、写真７は２カ月後のものである。

具体的には、お菓子、炭酸飲料などを際限なく食べているようだったのでそれらを絶たせることと、白米やパンなど精製炭水化物の制限、乳製品の禁止。質の良い油や塩の使用。ミヤリサンの服用とリコニンの飲用、粉末ビタミンＣを補給すること、海藻類の摂取。肉や卵のタンパク質には飼料、飼育環境への配慮をし質の良いものを選択させ、塩麹を使ったレシピなどを実践させた。細かい指導はほかにもあるが割愛する。後輩の娘という事もあり、毎日コンタクトをとれたのも功を奏している。

[症例⑤]

◎ 重度アトピー症（17 歳男性）

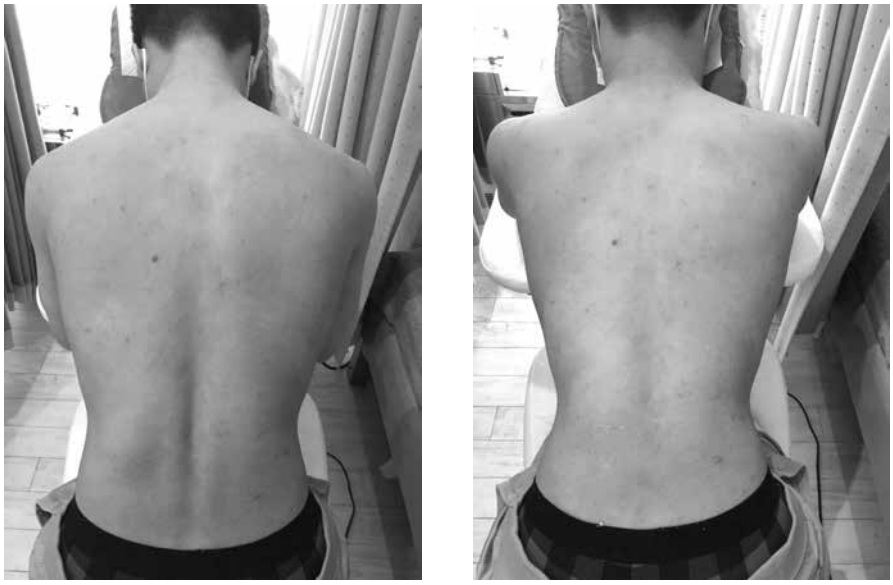

写真 08

広範囲にアトピー皮膚炎がみられ症状も強かった男性。希釈リコニンを全体的に塗って直後に撮影したもの。明らかな皮膚炎症の鎮静がみられた。本人も症状が軽くなったと実感し、その上からワセリンを塗るとさらに軽くなると話していた。食事管理等をして経過をみていたが、本患者は他疾患で通院していて、都合により残念ながら最後まで追えなかった。

【まとめ】

本学会論文規則により症例報告はここに止めるが、他にも症例は多数あり外用塗としてリコニンの効果があることは明らかである。また、今回同門の先生方から、リコニン体表塗布により、さらに様々な効果があったこともアドバイスとしていただいた。本論文にあるように、細菌性の炎症や虫刺されによる毒素にも効果する他、アトピーをはじめカンジタや足の水虫など真菌症に効果を示した。

今回発表した重症アトピーや痘瘡状苔癬粃糠疹などは、現行でもステロイド内、外用薬でしか対応がとれていない。しかしステロイドはどちらで使用しても、長期に渡ると重大な副作用を残すことは周知の事である。また身体の随所に起こる真菌症も抗生物質で対応するが現在では非常に難治である。

甘草は多量摂取で偽アルドステロン症等の副作用を起こすことがある一方で (しかし厚生省で定めた規定量は甘草の経口摂取で１日５ｇ、グリチルリチン製剤として２００ｍｇ以上なので副作用を起こすまでには相当な量)、外用塗として使用する分には、とりわけ甘草に対するアレルギーがないのであれば現在のところ副作用報告はない。

ステロイド軟膏のように瞬時の抗炎症作用はないが、甘草のもつ抗炎症作用や解毒作用が時間経過をもって良好な結果をもたらし、使用上副作用の心配をする必要がないのであれば、私のような柔道整復師をはじめ一般家庭でも安全に使用できるものである。さらに歯科領域でも口腔内の炎症に、塗布やうがいを活用することで歯科診療を有効にすすめることができる可能性があり、また難治性であるはずのアトピー等皮膚疾患にも有効であることから、専門医分野でもステロイドの代用薬、脱ステロイドの塗布剤として使用すれば、非侵襲的に効果する症例が増える可能性がある。

また、腸管免疫の保全や体内解毒に関しては、構造医学本講義でいつもあがる理論や方法、構医補助食品を駆使し、患者個別に適応する手段を組み立てたもので、構造医学学徒であれば誰でも知っているような内容を愚直に実践した。

本来であればここで甘草の薬理効果を紐解き記したいところだが、自分の調べられる範囲ではどうしてもグリチルリチンやサポニン、イソリクイチリゲン等の、甘草に含まれる成分単体の文献までしか見つけることができなかった。過去にはグリチルリチンジカリウムだけを抽出し外用薬として使えるか北里大学で臨床治験をとった経緯があるが、有効な効果を見ることができず薬品化できなかった。甘草エキスリコニンは甘草全体の成分を丁寧に抽出しているものなので、成分の単体が個別に機能しているわけではなく、全体が絶妙に調和し今回のような症状回復を補助していることは予測できる。これは今後のテーマとして研究を深めていきたい。

今回の論文では個人的なデータ収集のため、データ量は薄くあまり力を持たないが、安全に使用できる外用塗としての甘草エキスリコニンを、多くの先生方がこれをきっかけに実践していただければ、かなり多くのデータが集積し、今後の医療へ一石を投じるかもしれない。今回の論文が何らかの形で力になるのであれば幸いである。

発表の場を与えてくださった構造医学研究財団の皆様、また沢山のアドバイスをくださった同門の先生方に感謝を申し上げます。

〈参考文献〉

生薬甘草の成分が内臓脂肪の炎症・線維化を抑制する機序を解明
Isoliquiritigenin Attenuates Adipose Tissue Inflammation in vitro and Adipose Tissue Fibrosis through Inhibition of Innate Immune Responses in Mice
富山大学　著：渡辺康春、石井陽子他　2017.3.15
敏感肌に対するグリチルリチン酸ジカリウムの有効性
丸善製薬　著：屋敷圭子、大戸信明他　2017.3.21
あなたの遺伝子を守る健康薬甘草の知られざる力　遊タイム出版　著：杉山理 2001.10
甘草・グリチルリチン酸　健全社　著：藤川明男 1995.12.30
甘草の根に託して―徳陽日暮喜八の生涯　丸善化成　著：日暮喜八追悼集刊行委員会　1977.1
麹のちから　風雲舎　著：山本正博 2012.7.25
ビタミンＣが癌細胞を殺す　角川 SSC 新書　著：柳澤厚生　2017.11.10
ビタミンＣの大量摂取がカゼを防ぎガンに効く 講談社　著：生田哲　2010.4.21
生物は重力が進化させた　ブルーバックス　著：西原克成 1997.12.18
炭水化物が人類を滅ぼす　光文社新書　著：夏井睦 2013.10.17
ケトン体が人類を救う　光文社新書　著：宗田哲男 2015.12.18
ジョコビッチの生まれ変わる食事　三五館　著ノバクジョコビッチ　訳タカ大丸 2015.3.21
さらば消毒とガーゼ　春秋社　著：夏井睦 2005.12.15
日本人には塩が足りていない　東洋経済新報社　著：村上譲顕　2009.2.1
油が決める健康革命　ダイナミックセラーズ出版　著：釣部人裕　2014.11.1
アレルギーの９割は腸で治る　大和書房　著：藤田紘一郎　2011.2.9

〈参考URL〉

ロート製薬　グリチルリチン酸ジカリウムがアレルギー結膜炎の持続炎症を抑制
http://www.rohto.co.jp/news/release/2017/0224_01/　2017.2.24